

## ⑦女川駅北地区における眺望軸を中心とした コミュニティ醸成の取組み

受賞機関 宮城県 女川町、独立行政法人都市再生機構  
宮城・福島震災復興支援本部

キーワード コミュニティ維持・形成、住民協働、景観配慮

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

宮城県女川町で、住民とともに作成した復興まちづくりデザインを基に、周辺地域とつながる拠点広場やコミュニティ施設を併せ備えた災害公営住宅を建設した事業。

復興事業に先立ち、復興まちづくりデザイン会議を設置し、町民とまちのかたちのイメージを共有したうえで、海が見える眺望軸を設定し景観に配慮した計画としている点が評価された。

### 1. はじめに

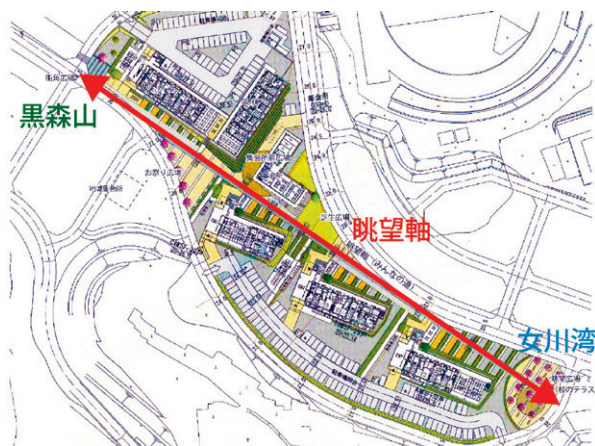
女川町は、牡鹿半島に位置する水産業を中心に発展した港町で、面積65km<sup>2</sup>の約8割を山林が占め、宅地は3%程度しかなく、今もなお各地で造成が行われている。

震災では、14.8mの津波と34.7mの遡上高を記録、人口約1万人のうち、死者・行方不明者は800人を超え、住家被害は町全体の約9割に及んだ。

### 2. 事業の概要

女川町の災害公営住宅は、UR整備によるRC造集合住宅と地元協議会整備による木造戸建住宅がある。本地区は女川駅の北側に新たに整備した高台に位置し、同町中心部から徒歩圏の立地に恵まれた145戸の集合住宅である。

地区の整備にあたっては、町の復興まちづくりデザインのコンセプトである「女川湾をどこからでも望める」景観づくりのため、女川湾と黒森山の眺望軸を中心に配置。隣接街区の災害公営住宅のデザインとの統一感を図り、地形を生かした配置により周辺との一体的景観形成を実現した。



女川湾を臨む配置計画上の眺望軸

また、この眺望軸上を地域住民のコミュニティ形成の場とするため、コミュニティボックス（談話室）・広場・ベンチ・共同花壇などを配置し、地域の活性化を促進する住民交流・地域交流の空間を創出した。



眺望軸に寄り添うコミュニティボックス

### 3. 事業の成果

コミュニティボックスは、町民バスの待合スペースとして、また、週2～4回巡回する地元のスーパーによる移動販売車の停車拠点としても利用されており、住民の皆さんや近隣の方々、さらには下校途中の小学生などが集い、賑やかな交流の場となっている。

また、屋外に設けられた花壇には、住民の方の手植えによる色とりどりの花が咲き、道行く人々を和ませている。

### 4. おわりに

女川町はあの地震と津波を経験しても、力強く海と生きる街として復興を進めている。

女川町において、URは市街地整備はもとより、平成26年3月から30年1月にかけて、計6地区において住宅整備を行ってきた。1日も早く復興が進むことはもちろんだが、町民の皆さんに末永く安心して住まい続けていただけるよう、ハードにもソフトにも力を注いできたつもりである。

今度こそ、この住宅で、町の皆さんが安心して住み続けていただけることを願ってやまない。

賛助会員 鹿島建設(株)